

わが国茶業技術発達史

History of Tea Technology Development in Japan

製茶技術は、明治の初期まで民間人の努力で進められてきました。明治の後半から重要な輸出商品を育成するため、国を挙げて高度な栽培法や機械化、茶の利用法の開発および機能性成分の解明などが行われてきました。

1885	明治 18	製茶機械の開発始まる
1896	明治 29	農商務省農務局製茶試験所設立（本格的な茶の試験研究始まる）
1904	明治 37	製茶機械の実用化試験始まる
1905	明治 38	製茶試験所から農事試験場製茶部へ
1917	大正 6	茶鋏による摘採が始まる（手摘みから鋏摘みへ）
1919	大正 8	国立茶業試験場設立
1924	大正 13	茶葉中からビタミンC発見（三浦政太郎）
1924	大正 13	碾茶（てんちゃ）の機械製茶法開発
1925	大正 14	茶葉中からビタミンA発見（山本頼三）
1926	昭和 元	煎茶の標準機械製茶法確立
1928	昭和 3	玉露の機械製茶法開発
1930	昭和 5	緑茶からティーカテキンを発見（辻村みちよ）
1932	昭和 7	茶の組織的な交雑育種開始
1940	昭和 15	緑茶のフラボン成分発見（辻村みちよ）
1950	昭和 25	茶葉中からテアニン（アミノ酸の一種）発見（酒戸弥二郎）
1953	昭和 28	茶の優良品種が初めて農林登録される
1961	昭和 36	試験研究機関の再編により、茶業試験場及び同枕崎支場設立
1962	昭和 37	インスタント緑茶開発
1963	昭和 38	電動式摘採機開発
1965	昭和 40	連続式製茶機（50kg 機）普及始まる
1965	昭和 40	可搬型動力摘採機開発
1969	昭和 44	連続式大型製茶機（120kg 機）の開発
1971	昭和 45	乗用型摘採機の実用化開始
1972	昭和 46	防霜ファンの実用化開始
1981	昭和 56	ウーロン茶ドリンクの市販開始
1981	昭和 56	製茶機の大型化進む（180kg 機の開発）
1981	昭和 56	緑茶成分の癌抑制効果発見（賀田恒夫）
1983	昭和 58	紅茶ドリンクの市販開始
1985	昭和 60	緑茶ドリンクの市販開始
1986	昭和 61	野菜試験場と茶業試験場が統合して野菜・茶業試験場誕生
1986	昭和 61	血圧上昇抑制作用のあるギャバロン茶開発
1990	平成 元	茶カテキン類の機能性研究が活発化
2000	平成 12	メチル化カテキンの抗アレルギー活性発見
2001	平成 13	野菜・茶業試験場は独立行政法人農業技術研究機構野菜茶業研究所となる
2002	平成 14	‘べにふうき’（茶農林 44 号）を利用した機能性飲料の開発に着手